

おおとり会だより

時代を見つめて

おおとり会会長 牛木 琴

新年度を迎えて大学周辺日本平の丘陵は豊かな緑で彩られております。会員の皆様には、各々の場でご活躍の事と存じます。

二〇〇一年、ニューヨークで起った強烈な出来事によって、開かれた21世紀は、その後も衝撃的な事ばかり。半世紀前、戦争放棄を宣言した日本は、平和と軍隊のない社会を満喫してきましたが、第二次世界大戦の終結は戦争の終結ではなかったのです。朝鮮で、ヴェトナムで、パレスチナ、ニカラグア、アフガニスタン、そしてイラク…戦争か平和かと云った素朴な選択が不可能となり、いつまでたっても究極な平和など実現されないと云う時代の到来を意味し、私達をとり囲む状況も一段と厳しくなる事と思えます。県立大学も、国立大学民営化などという政策が打ち出されて大きく変わってゆくことでしょう。

おおとり会としては、学内に拠点を確保し、モノコメントの銘石、由来を示した銘板も完成し、「おおとり会賞」も設置して一区切りついたと思えます。もともと学生数が少なく、時として総会出席者が、来賓の先生方と卒業生が同数などという事もありました。そんな状態から会を運営して半世紀、この世紀の変わり目に会長交替を考えながらも手順が悪くてずれ込んでしまいました。先般、会長選考委員会で協議した結果、副会長（食物学科同窓会会長）の大石邦枝さんにご承諾をいただき、今年度総会で承認を得る運びとなりました。永い間支えて下さった役員の方々、ご協力下さった会員の皆様に深く感謝し、心から御礼申し上げます。ほんとうに有難うございました。新会長、新役員のもと、おおとり会の更なる発展を念じてご挨拶と致します。



「おおとり会」と共に

元副会長 原 都子

平成2年7月
内園元学長のお宅にて
原 岡田 故美尾
泰先生 牛木 内園先生

昭和三十一年私達の卒業式の日、同窓会長としてご挨拶なさったのが牛木さんでした。

「わあ、若い会長さんね」と友人と話した事を思い出します。それもその筈、私達よりたった三つ年上というだけですから…。学校も同窓会も出来たで、何もかもこれからという時でした。少人数で校舎も城北高校と同居という状態でしたが、それだけに学長先生初め先生方と家族のように過ごした二年間でした。学生生活が楽しくて卒業後も未練があり、度々学校へ遊びに行つては先生や助手さんと雑談したりしていました。

その後、結婚や子育てで十年近く足が遠のきましたが、その頃、会長が一回生の大野淑子さん、四回生の海野房江さん、五回生の美尾浩子さんと代り、短大も女子大に向けて大きく成長しつつある時でした。同窓会も当時の役員さん達が奔走して女子大につなげて下さいました。

美尾さんは教育大を卒業後、母校に戻られて精力的に仕事をなさるかたわら、同窓会長としても活躍して下さいました。二番目のお子さんが出来た時に、子育てと仕事と同窓会は大変という事で、再び牛木さんが会長になられました。その時、副会長として私がご指名を受け、あまり深く考えもせず引き受けてしまい、何もわからずただ牛木さんの後にくっついて、ご一

緒に行動してまいりました。

女子大が発足してから、同窓会の名称も「おおとり会」と名付け、第一回の卒業生の中からもう一人の副会長を将来への期待を込めて、岡田寿子さんをお願いしました。

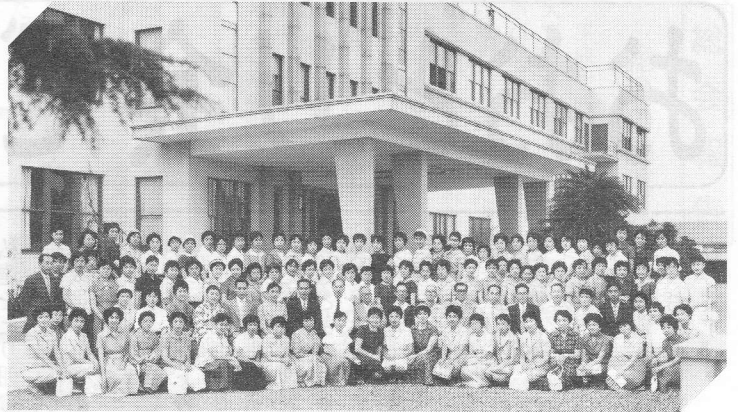
牛木さんは短大一回生として同窓会を作り、女子大に繋げ、その女子大の閉学から県立大へと繋げて下さいました。その間五十年もおおとり会のために多くの時間と労力を注いで下さり、本当に永い間ありがとうございました。これからは自由な立場で発言なさって、後輩を応援し続けて下さい。

えっ、卒業してもう三十三年？ お世話になりました。

副会長 岡田 壽子

私達、静岡女子大学第一期生は卒業して今年で、三十三年になります。そして、私がおおとり会のお手伝いをさせていた、たくさんになって、二十余年が過ぎてしまいました。その間、自分の仕事が忙しく、余りお役に立てずに今日まで来てしまいました。こと、申し訳ない気持ちでいっばい。牛木会長様には、「今に時間ができるようになるから、その時にはもつとがんばってもらえませんか。」と励ましていた、だいてきました。けれども、年を追うごとに忙しさは増し、なかなかお役に立てず、おおとり会の皆様には申し訳なく思っています。振り返れば総会等で、いろいろ皆様に教えて頂きました。また、会長様、長い間ありがとうございました。総会で、大学の一期生が集まると、会長様のクールな、時流を鋭くついたお話に、さすが先輩ね、の聲がよく聞かれました。これからもお元気でいらしてください。おおとり会のみますますの発展をお祈りしています。

0年のあゆみ



静岡女子短期大学同窓会総会 昭和34年6月 北安東校舎玄関前



↑ 大石正路氏講演 平成2年6月 ↓

県立大小講堂にて



おおとり会総会 昭和62年6月 「蝸牛」の舞台より



静岡女子大学閉学式 平成2年3月

被服科初幹事会開催 牛木会長を囲んで

大学五回生(幹事)

近藤 和 恵

静岡女子短大第一回生卒業から五十年が過ぎようとしています。今年は、長い間おとり会を率いてこられた牛木会長の辞任の意思が固く、役員改選があります。そこで、被服科単独で初の幹事会を開きました。

三月一日(土)当日は、あいにくの雨でしたが、十四名が集まりました。

短大一回生入学当初は校舎も建設途中であった話、臣匠芹沢銈介先生に手ほどきしていただいた話、四年制大学開校当初は、茶畑の中を毎朝白亜の校舎に通った話等々歓談はつきることなく、あつという間の二時間でした。

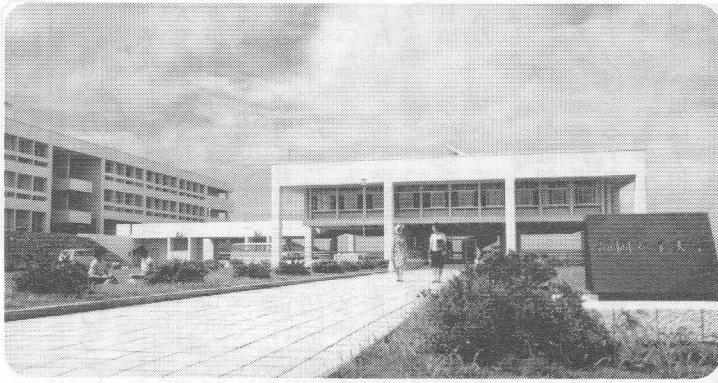
還暦記念の富士登山や南アルプスへの山登りの事、遠方へのドライブの話等、話はつきず、先輩達はいつも輝いていることを誇りに思いました。牛木会長には、本当にお世話になりました。感謝の気持ちでいっぱいです。

最後に、次年度からの被服科新理事及び非常任理事を選出し、今後のおとり会のさらなる発展を誓いました。

牛木会長 ご苦労さん会

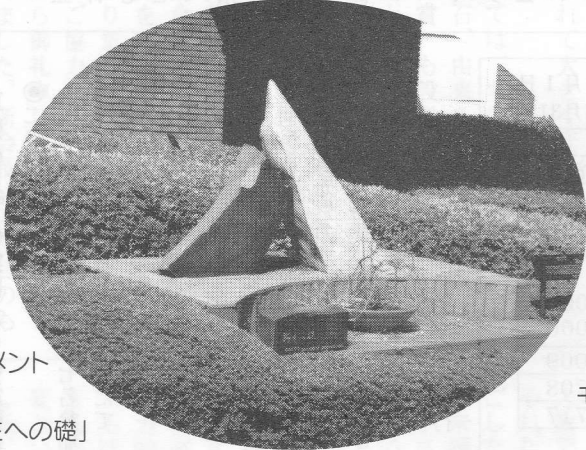


平成15年3月1日(土)
中島屋グランドホテル



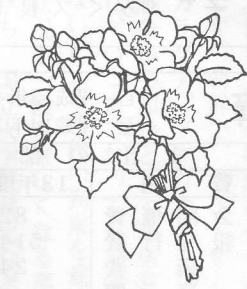
昭和42年 静岡県立大学開学

おおとり会 5



モニュメント
碑銘
「新生への礎」

県立大学 キャンパスにて



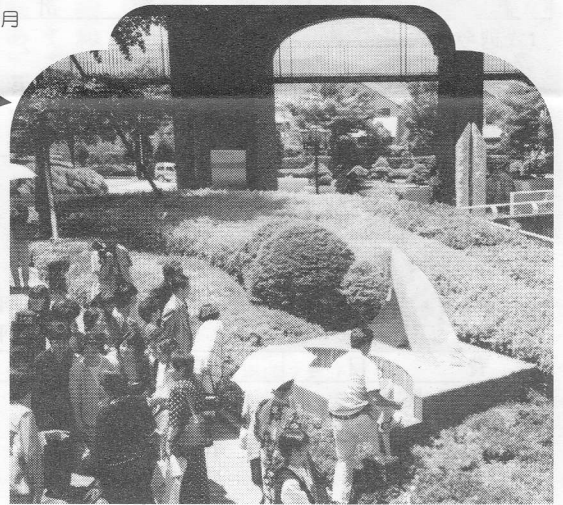
モニュメント
平成9年6月



平成3年総会時 故 美尾浩子さん
懇親会会場にて



第1回 おおとり会賞としてはばたき寄金へ寄贈
平成14年4月 静岡県立大学学長室にて



除幕式

はばたき寄金

地域密着の防災ボランティアを目指して
第1回「おおとり会賞」受賞団体
防災ボランティアサークル 防々

第一回の「おおとり会賞」をいただき感謝申し上げますとともに、この賞を励みとして今後の更なる活動の充実を目指すところであります。このサークルは、看護学部を中心に平成十二年九月に結成され、薬学部や看護学部などで学ぶ学生の特色を活かして、①学生・職員・地域住民に対して、防災・救命に関する知識や技術の普及に努める、②地域住民と静岡県立大学の交流を深め、災害時における相互扶助の実現を図ることを通して、予測される東海大地震に対応できることを目的としております。会員は阪神大地震の際にボランティアがどのような行動をしたかを学び、消防署の普通救命講習を受講し、心肺蘇生法の技術を習得しております。今後は薬学部・看護学部以外の他学部の学生にも協力していただき、県立大学で学んでいることを活かして東海大地震に備えて対応できるように勉強し、地域住民の方と交流を図っていきたいと考えております。



防災ボランティアサークル 防々

総会報告

総会の開催にかかわって

平成十四年度の総会が六月二日(日)、県立大で開かれました。思いおこせば、当番幹事が集まり、「今度、大学七回の方が中心になって進めてください」と、バトンを渡され、途方に暮れたことを思い出します。牛木会長はじめ、先輩方に親切にご指導いただき、なんとか努めることができました。私たちの卒業した大学がなくなつた今、県立大とのつながりを第一に考え、常日頃、大学に足を運んでくださっている偉大なる先輩あつての、おおとり会だと思ひました。

さて、総会は例年どおりとどこおりなく進み、続く静岡県立薬科大学出身の男性グループによるアカペラライブでは、「Stand By Me」や「学生時代」など、なつかしい曲で、会場は手拍子と歌声につつまれました。先生方を囲んでの懇親会、見晴しの良い教室を借りてのミニクラス会。タイムスリップした一日でした。これからも、多くの卒業生が「谷田の丘」に集うことを望みます。



アカペラ・グループ
「ザ・クレセント・クラン」

大学七回卒 幹事
松田 喜代子

関西支部

『草薙の丘』の集いからの活動報告

●二〇〇一・五・二七

『草薙の丘』の集い(十七名参加) 京都がんこ高瀬川二条苑にて 上條先生の講演
「正統和歌と俳諧歌」をきく

●二〇〇二・五・二六

『草薙の丘』の集い(十三名参加) からすま京都ホテル「桃李」にて 小泉先生の講演
「縄文時代における日本語」をきく

●二〇〇二・五・下旬
『あるばとろす』第十号 発行

剣祭バザー収益金

平成十四年十一月三日、恒例の剣祭が県立大学で行われました。今回も多数の方が、バザー開催にご協力して下さいました。心からお礼申し上げます。

剣祭バザー収益金
二八、七二〇円

同窓会費に入れさせて頂きます。

関森 勝男先生ご退官

女子大、県立大とご指導いただき、カルチャー講座でもご活躍の関森勝男先生が本年をもって退官されました。四月から、浜松短期大学教授にご就任との事です。

平成13年度収支決算

自 平成13年4月1日
至 平成14年3月31日

収入の部		支出の部	
費用	13年度決算	費用	13年度決算
受取利息	271,051円	総会開催費	82,498円
通信費	900,000	会報発行費	514,855
雑収入	35,921	会議務費	24,656
		会事費	0
		慶弔費	15,000
		はたき基金	50,000
小計	1,206,972	小計	687,009
前年度より繰越	13,707,745	次年度への繰越	14,227,708
総計	14,914,717	総計	14,914,717

(繰越金 内訳)

定額郵便貯金	8,037,548円	書籍	138,000円
普通預金	2,380,069	テレホンカード	4,620
公社債	57,123	現金	20,870
	3,589,478	合計	14,227,708

上記のとおり相違ありません。
平成14年5月23日

会計 大石 紀子

会計監査 後藤 和江
外岡 幸子

平成14年度予算

自 平成14年4月1日
至 平成15年3月31日

費目	予算	備考
総会開催費	150,000円	
会報発行費	500,000	
会議務費	40,000	
会事費	10,000	
慶弔費	50,000	
はたき基金	300,000	30,000×10年分
予備費	250,000	
合計	1,300,000	

次期おおとり会会長 選考経過報告

被服科短大一回
選考委員長 竹沢 好美

先般、おおとり会会長として長年ご尽力下さいました牛木会長から、今期をもって退任を希望されるお話がありました。理事会としては、続投を望む声も多かったのですが、各科から二名ずつの委員を選出し、次期会長にふさわしい方の選考にあたりました。

そして、昨年十月末に選考委員会としては、短大八回食物料 大石邦枝さん(静岡県立大学 食品栄養科学部 助教授)を、次期会長候補として推挙し、今年一月末の理事会の席で、正式に選出する旨をご報告しました。

あともがき

昨年は広く世界に目を向けてというような大きなテーマでしたが、今年のご身近な存在である同窓会が五十年を迎え、会長交代の節目でもあるので記憶が遠くなつてしまわないうちに、この際取り上げてみました。

原 都子

青い空、満開の桜、優しい春が訪れる日本に生まれたことを幸福に思います。人の和がいつ迄も続くことを願っています。

森 恵美

特集『おおとり会50年のあゆみ』を編集するにあたり、私が生まれる前からの同窓会組織なのかと、改めてその歴史を実感しました。

石田 加苗

昨年に引き続きお仕事をさせて頂きました。おおとり会だよりには、たくさんの方々のご好意で成り立ち、また受け継がれているのだと改めて実感しました。

望月 嘉栄子

訂正とお詫び

- ・ 1 ページ 2 段目 写真下のお名前

(誤) 泰先生

↓

(正) 秦先生

- ・ 3 ページ 左上写真説明

(誤) 昭和42年 静岡県立大学開学

↓

(正) 昭和42年 静岡県立女子大学開学

以上2箇所訂正致しますと同時に
お詫び申し上げます。